

成果指標				
成果指標	運行日数実績／運行日数計画×100			
指標設定の考え方	学校教育をより適正・円滑に実施するため、関係者協議のうえ実情に即し策定された安全・安心な運行計画を遵守する。			
区分年度	26年度	27年度	28年度	
目標	1	0	0	0
実績	0	0	0	0

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	4	
		市の関与の妥当性	4	
	有効性	事業の効果	3	C
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	4	B
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	学校統合による通学手段の確保として実施している。事故等もなく、安全な送迎実施をする必要がある。			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	4	
		市の関与の妥当性	4	
	有効性	事業の効果	4	B
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	4	
	効率性	手段の最適性	3	B
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	4	
課題認識	近年、利用児童生徒数の減少に伴い、現行の実施方法を検討していく必要がある。中山通学バスについては、来年度に長期契約が満了となるため、効率的な運用が図れるよう検討する。双海中学校バスについては、単年度契約となっているが長期契約の導入にかかる検討が必要である。			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	一次評価結果のとおり事業継続と判断する。
意見、課題	

行政評価委員会の答申

外部評価
(行政評価委員会)

経営者会議の最終判断

事業の方向性

現状のまま継続する。

意見、課題